

令和5年3月3日 卒業式 式辞

木々の芽吹きが始まり、柔らかな春の息吹が感じられる今日の佳き日、令和四年度 島根県立江津高等学校 第六十三回卒業証書授与式を挙げていくことは、この上ない喜びであります。

ただいま卒業証書を授与されました五十五名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を迎えられました。

今日までお子様を見守ってこられたご家族の皆様におかれましては、感慨も一入のことと存じます。心よりお祝い申し上げます。江津高校での三年間の高校生活を経て、お子様は心身ともにたくましく、大きく成長されました。どうかお子様の輝ける前途を温かく見守り、時には励まし、これからも支えていただきますようお願いいたします。また、皆様方にはこの三年間、本校の教育活動推進のために、温かいご支援と多大なるご協力を賜りましたこと、高いところからではございますが、この場をお借りし、教職員を代表して心から厚くお礼を申し上げます。

卒業生の皆さんが、期待と不安を胸に江津高校に入学した日から三年の月日が流れました。この三年間は、まさにコロナ禍の中での高校生活でした。入学早々、緊急事態宣言の全国拡大に伴い一斉休校措置がとられ、学校が再開された後も学校行事や部活動の大会などの中止・縮小があいつぎ、非常に悔しい、残念な思いをした人も多かったと思います。感染防止対策をとりながらの学校生活は、ままならないことも多々ありました。皆さんには本当に残念な思いをさせてしまい、申し訳なく思っています。しかし、皆さんは、日常生活の細かな点に至るまで様々な制限がある中においても、授業や部活動、学校行事などで多くのことを学び、その中で自らを見つめ、自らを表現し、自らの成長のためにいろいろなことにチャレンジしました。一生の財産となる仲間との友情も育ててきたことと思います。皆さんの卒業にあたっては、ご家族、教職員はもちろん、在校生も参列して、皆さんの門出をお祝いすることとしました。

さて、本校を巣立っていく皆さんに「じりつ」への道という言葉をご紹介します。「じりつ」には二つの漢字が充てられます。すなわち、自らの脚で独り立ちをする「自立」と、自らを律していく「自律」です。後者の「自律」は、「セルフコントロール」・「セルフマネジメント」と言い換えてもよいかもしれません。ここにいる卒業生のみなさんの多くが十八歳の誕生日を迎えていると思います。ご存じのとおり民法改正により成年年齢が十八歳に引き下げられました。法律上はすでに大人の仲間入りです。皆さんは、これから自分自身が選択した人生の新たなステージに進み、そこで自らの道を究めていくことになります。四月から社会人として仕事をする人、親元を離れて独り暮らしを始める人もいます。自らを厳しく律し、しっかり独り立ちをしてください。多くの人との出会い、様々な経験を経て、自らの可能性を広げてください。これから先の長い人生に向けて、自らのあるべき姿を模索し、目指すべき未来の実現に取り組んでください。

我々を取り巻く社会は急速に変化しています。社会の変化に柔軟に対応するために、自らの軸をしっかり持つとともに、様々な人との関わりの中で、多様な価値観に触れ、広い視野と幅広いものの見方や考え方を身につけていくことが求められます。失敗を恐れず新たなチャレンジを続けてください。答えのない課題に対しても果敢に取り組んでください。皆さんは、地域と連携した江津高校での学びを通して、その資質と能力を身につけることができたはずで、そうして身につけた資質と能力を、次のステージでも十二分に活かしてください。

結びにあたり、卒業生の皆さんの前途を祝福するとともに、今後の活躍を祈念申し上げ、式辞といたします。

令和五年三月三日

島根県立江津高等学校長 田村康雄